（別紙の２）

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価	
					次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、職員の意識づけに役立てている。理念が反映されるよう、職員が意識している。	利用契約時、家族に法人理念、一部署として所属する老人保健施設全体理念、ホーム独自の理念について機会あるごとに確認している。理念に沿って利用者が「今まで生きたことを大事にし、自然な生活が送れる様又利用者、家族、職員が一体感を持つためにはどうしたら良いか」を職員間で話し合いを重ね支援に取り組んでいる。理念については玄関やホールに掲示し誰にでも分かるようになっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流を持つ機会はないが、近隣果樹園の方や、民生委員の方が果物、野菜を持って訪問してくださり交流している。週２回、障碍者施設の方がお掃除に来所し、ご利用者との交流もある。	隣設の老人保健施設と共に区費を支払っている。自治会長や民生委員の方が度々来訪され交流している。地域の障碍者支援施設の利用者が指導者と共に週2回、ホールと各居室の掃除のために訪れている。また、近くの障碍者事業所のパンの販売も引続き行われ交流を図っている。市内の女子短大の学生による食事作りのサポートも行われ、利用者との交流も進められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	防災訓練などで地域の方が来所された折には、認知症の理解や接し方を伝えている。短大生の実習の受け入れでは、認知症の方への支援について指導を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開催し、現状を報告し意見をいただく他、その内容を職員会議で報告し話し合っている。	偶数月の第3木曜日、午後1時30分より開催している。家族代表、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員の参加を得て実施している。事業報告、利用者状況報告、人事等連絡事項などを発表後、活発な意見交換が行われている。利用者の高齢化が進む中、平凡な生活を送る大切さ、また、防災、避難等について話し合われている。会議内容を職員にも報告し話し合いを持ち、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	諸届け変更時、不明点があれば気軽に連絡をとりアドバイスをいただき、事業に活かしている。	地域包括支援センターから他事業所等の情報を頂き運営の参考にしている。介護認定更新調査は家族から連絡が入り調査員がホームに来訪し行っており、同席できる家族も加わり現状を伝えている。月1回開催される市主催の事業所連絡会には管理者が出席し研修や情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修に参加し職員意識を高め、日々のケアに根付いている。安全面を考慮し、拘束対応をしているご利用者もいるが、最小限に留まるよう、観察やカンファレンスを行っている。	日中玄関は開錠されている。出入りがあると大きなチャイム音で知らせるようになっている。身体拘束をしないケアを心掛け、法人内の研修には必ず出席し意識を高め内部でも話し合いを重ねている。ベットからの落下転倒防止のため夜間のみ最小限の柵を使用することがあるが、きめ細かな見回りを行い解除できるように努めている。外出傾向のある利用者には気分転換を図るように外へお連れし対応している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内研修に参加し、職員意識を高めている。事業所内の目に付きやすい場所にポスターを掲示している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修に参加し理解を深めている。後見人制度を導入しているケースでは、その都度情報を共有し意見交換を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居開始時充分に時間をとり説明を行う他、必要時にはご家族に確実な説明を行っている。 重度化、医療連携体制、訪問診療等も、項目ごとに説明を行い同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者には、日常会話の中で引き出したり、汲みとれるよう配慮している。ご家族には面会時に近況報告をしながら、気軽にご意見をいただけるよう関係作りにも配慮している。	殆どの方は意思表示が出来る。そのような中、表情と行動を見て声掛けし新たな情報についてはアセスメントシートに記録し申し送り等で話し合いを行っている。家族の来訪は週1回～月1回位であるがホームでの近況報告、また、家族の近況をお聞きし意思疎通を図っている。ホーム便りは職員のローテーションを組み手書きで作成し、個人別状況報告の手紙と共に送り喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議での意見交換のほか、日頃の意見も反映させる努力をしている。事業所内以外の問題点、意見については併設老健との会議の場で伝えるようにしている。	毎月第1金曜日、隣設の老人保健施設と合同の会議が行われ、それを受け第3木曜日、全員参加の職員会議を実施している。ホームの運営や利用者のケア等について活発で自由な話し合いの場が持たれ、実行出来ることは即実行し運営に活かしている。法人として産休、育休の制度があり、全員で仕事のフォローをし合うシステムが確立されている。そのため働きやすくストレスが溜まりにくい職場環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が現場に来ることはないが、母体施設が開催する連絡会の中で、事業所の要望や、現状についての相談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は外部研修の情報を収集し、職員が受講しやすい環境を整えている。職員も積極的に、外部研修参加に協力している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価	
					次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での連絡会に参加し、事業所同士の交流や情報交換を行っている。その情報をもとにして、事業所内で取り組めることは職員会議で話し合っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申込書に記入欄を設けている。また事前面談時に、生活状況の把握やご本人の想いを聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との関係作りには、職員全員が特に重要と考え配慮している。まずはご家族に安心していただけるよう、信頼関係の築きに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な限り、事前訪問をお願いし、事業所内の雰囲気を感じてもらう時間を設けている。その中で必要なサービスを見極め提案することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	要介護者、介護職員という意識を持たず、共に住まう仲間としての意識づけが根付いている。その場面作りにも配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族が繋がるよう、職員全員が意識してご家族との関係作りを行っている。その日の状態によってコミュニケーションに波がある方は、ご本人からの言葉をご家族に伝えられるよう、職員間の情報共有も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでのご友人も高齢となり、直接コンタクトをとる事が困難になっているケースが多いが、親類縁者の方にも気軽にご面会いただけるよう配慮している。関係性を継続できるよう、パイプ役を行い、職員が連絡を取ることも行っている。	友人や知人の高齢化も進んでいるが、来訪される知人、親戚の方があり、果物、野菜の差し入れも頂いている。職員がお手伝いをし家族に電話をしたり手紙を出し、関係を継続している利用者もいる。利用者同士仲が良く、各居室を行き来し楽しんでいる。また、小さい時から顔馴染みとなっている職員の子供さんが立ち寄ることもある。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価	
					次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性が出来ている方は、その関係性が崩れないよう支援している。ベッド上で過ごす方の居室に訪室できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	この2年間で1件次のサービスへの移行による契約終了ケースがあった。ケア内容が継続されるよう密な情報提供を行い、新生活への支援を行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、ご本人の意向を把握できるよう配慮しているほか、困難なケースでは、これまでの嗜好や想いを情報共有し、ご本人の意向に沿った暮らしを検討している。	高齢化が進み介護度も徐々に上がってきているが殆どの利用者は意思表示が出来る。居室で体を寄せ合い、利用者と職員が一対一で気軽に話をしたりふれ合う機会を持つことに重点を置いている。そのような中、利用者の求めていることを汲み取り、職員間で情報共有し意向に沿った支援に取り組めるよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントに時間をかける他、ご家族からの情報収集を行い、その人を知る取り組みに重きを置いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者それぞれの生活リズムを熟知した上で、その変化から現状の把握が出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の状態に合わせ、ご家族の意見、訪問看護師、主治医のアドバイスを取り入れながら、カンファレンス(ショート含む）やモニタリングを行い、ニーズを捉えた計画を作成している。	担当制をとっているが、全職員で情報を共有し利用者全員を支援するようにしている。ローテーションで各個人別の状況を手紙にして家族に報告している。介護計画の見直しは3ヶ月に1回行われ、担当者が計画を作成しカンファレンスの場で全職員で話し合い、主治医、看護師の意見も取り入れながら利用者本位の計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態変化や環境、ご本人からの言葉とその時どきの気づきを細かく記録し、情報共有を徹底している。記録を基にして計画の見直しを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価	
					次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況や、ご家族の意向、状況に応じて必要な支援を行っている。外出面については、その場での対応には応えられないことが多い。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会を通して、自治会の方との交流も増え、地域資源の情報交換をする機会が増えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期受診、必要時の受診対応をしている。職員が付き添うことで日常の様子を報告しながら主治医との連携を結んでいる。重度化に伴い、外出が困難な方には、訪問診療により、主治医との連携を結んでいる。	法人運営の総合病院がかかりつけ医となっている。本年8月より訪問診療が開始され半数以上の方が往診での対応、それ以外の方が受診対応となっている。週1回、同じ病院の訪問看護ステーション看護師の来訪もあり健康チェックと情報の共有化が図られている。夜間は母体病院、併設施設それぞれの当直医、看護師と連携を取りつつ支援に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、定期訪問を受けている。経過報告を行い、アドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院看護師に日常の様子を職員が申し送るほか、ご本人の負担軽減の為にも入院期間が極力短期間になるよう、ご家族、医療機関との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が著しく、ご本人の状態についてご家族と話をする機会を設けるべく、面会時には職員全員が状態説明を行えるよう情報共有している。事業所で何が出来るか、職員間の話し合いも密に行っている。	利用契約時にホームの考え方を家族に話し希望に沿った対応を取るようにしている。過去に看取りをした経験があり利用者全員でお見送りをし家族からも感謝された。ここ3年位で利用者の重度化も進み職員の中で看取りに対する心構えができている。対応の時期が来たらできることをケースバイケースで精一杯行えるよう話し合いを重ねている。夜間の非常事態については対応マニュアルに従って法人内の看護師の指示を仰ぐようになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で再確認しているが、定期的な訓練は行っていない。訪問看護師、併設老健看護師の指示等の共有の徹底や、急変者への対応について、その場の職員同士で指導を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価	
					次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルの完備、見直しを行い、年2回防災訓練を行っている。職員間での火災発生時、災害時を想定した話し合いを行っている。地域の方には防災訓練に参加していただいている。	年2回、消防署の指導の下、避難、通報、夜間想定の訓練を行っている。利用者も車イスで玄関まで移動している。ホーム独自で火災のみ地域との協力体制が確立しており、防火訓練への参加とともにスプリンクラー、消火器の設置場所の確認をしていただいている。また、夜間想定時には職員が毛布に利用者を乗せて避難する訓練も実施している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者個人の特性を理解し、気持ちや環境に適したケアを心がけている。	利用者の気持ちを思い、プライバシーの保護、やってはいけないこと、言ってはいけないことを理解しプライドを傷つけないよう心掛け、自然に接するケアに取り組んでいる。利用者の呼び方は本人や家族の希望を聞き尊敬の気持ちを込めお呼びしている。隣設の老人保健施設と合同の各種研修会に参加し、人格の尊重とプライバシー保護に徹した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	状態に合わせた自己決定の場面作りを意識している。思いや希望を出しやすい関係作りにも配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の希望での外出支援は行っていないが、その日の本人状態、ペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には一緒に服を選んだり、入浴時の着替え準備の際にも選択できる方法をとっている。 重度の方は、拘りや好みを把握し、その中で職員が選ぶことが多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化に伴い、ご利用者と一緒に食事準備をする機会は殆どないが、全員で揃って食事が出来るよう食事形態に配慮し、食卓作りを行っている。	全介助の方が若干名いるが殆どの方は一部介助を含む自力での摂取で、食形態はミキサー食の方が半数以上、キザミの方が三分の一ほどという状況である。利用者の好みに合わせ量も変え、誕生日には好きな物をメニューに加え、盆、正月には特別食をお出しし職員も一緒に食卓を囲んでいる。一部、食器拭き、下ごしらえのお手伝いができる利用者がいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、回数、形態や好み等、食事場所においても個人の状態に応じた支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛けのほか、ナイトケア時には職員が口腔ケアを行い状態の把握を行っている。 歯科医の往診を受けている場合には、指示をいただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	重度化に伴いオムツ対応の方もいるが、個人の排泄表を用い、排泄パターンの把握に努めている。ご本人の排泄習慣に合わせ、リハビリパンツから布パンツに移行する方もいた。	全介助の方が三分の一、一部介助の方が三分の二という状況で、リハビリパンツ、布パンツ使用が殆どであるが重度化に伴いオムツ対応の方もいる。排泄チェックシートを用いパターンを把握しトイレ誘導するよう取り組んでいる。排泄には特に気を使いプライドを傷つけないようにしている。一日を通してパターンに合わせ自然な声掛けに心掛け、支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排泄表を用い、排便の有無、排泄パターンを把握している。便秘時には個別に応じた対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の体調の良い時間帯、希望や状態に合わせた支援を行っている。入浴中の習慣や好みを熟知した支援を行っている。また、特浴対象者の方も、ご本人に希望で、一般浴での対応を行っている。	三分の一の利用者が全介助で一部介助の方が三分の二という現況である。基本的には週2回、一日2名ずつ入浴を行っている。重度の利用者についてはシャワー対応の時もあるが状況に応じ臨機応変に対応している。季節に合わせ「ゆず湯」などで入浴を楽しんでいる。浴室はユニットバスを使用しているが広さは充分に確保されており、手すりも随所に付けられ安全に配慮した造りとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	言動や表情から、休息への誘導を行いながら、ご本人の生活リズムを崩さないよう配慮している。一人ひとりの睡眠状況の把握にも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	特に内服変更時には、情報や知識の共有を行い、経過観察、記録を徹底している。薬の内容をファイルし、一覧にしている物を見直し、個人別に薬の内容、作用、副作用を見易く整備することで、症状変化に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	重度化により、役割が出来ない方もいるが、一人ひとりの性格や状態を把握し、声掛けや対応で笑顔が引き出せるよう、楽しい事や出来ることへの支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価	
					次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿った日常的な外出支援は行っていないが、受診時の外出を利用し外食や買い物支援を行っている。ご家族と外出される方もいるが、地域の方との協力しての外出は行っていない	歩行状態は自立の方が三分の一、杖歩行の方が若干名、車イスの方が半分弱という状況である。天気の良い日には玄関の前にイスを置き花を見たり、外気浴を楽しんでいる。定期受診の際には母体病院の7階展望レストランで食事をしたり、野菜等の買い物を行い、楽しい一日を過ごしている。外出計画として春のお花見、秋の紅葉狩りが行われ、それぞれ2班に分かれ全員がドライブを兼ね楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度のお金を個人で所持している方もいるが、概ね事業所で管理している。 パンの訪問販売や、外出時の買い物の際にはご希望に応じて使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望に応じて電話対応の支援を行っている。手紙のやり取りの支援を行うこともあるが、ケースは少ない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間を広く設けてあり、ご利用者は自由に行き来できるようになっているが、車椅子利用者が増え、避け合う場面も多い。玄関の飾り物、掲示物等に季節感を採り入れている。	玄関を入ると食堂と一部畳敷きの談話室が広がっている。横には広々としたオール電化のキッチンがあり、周りを取り囲むように各居室が配置され目が届き易い造りとなっている。2ヶ所あるトイレも車いす使用を考え広い造りになっており使い勝手の良さが感じられる。また、当ホームは果樹園に囲まれた環境の中にあるので各居室の窓からは季節に応じた果物の様子を見ることが出来る。掲示板に皇室ご一家の写真を数多く貼るなど、利用者の気持ちを和ませる工夫を随所に見ることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご利用者同士や、生活習慣に合わせた動線を意識して、テーブルの配置を行っている。ワンフロアにより開放感があるが、一人になれる共用空間は配置されていない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の好みや状態、安全面を考慮し、居室作りには個人差があるが、家具、調度品を持ち込まれる方もいる。	各居室はゆったりとした広さが確保されており、洗面台も設置されている。ホームの介護ベットと物入れ、大きなクローゼットが配備され暮し易さが感じられる。使い慣れた家具が置かれテレビ等も持ち込まれ、また、家族の写真も飾られ利用者は自由に思い思いの生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に応じて居室ベッド、タンスの配置換えを行い、安全性を重視している。ご本人の混乱や不安に配慮して対応している。		